

SHIMIN PRESS の
バックナンバーは
インターネットで
ご覧頂けます。
WEB SHIMIN
http://www.shimin.info

SHIMIN PRESS

市民プレス：第12号

2003年11月01日
(隔月刊、無料配布)
発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」
編集人 原 昭 二
制作・印刷 デジタル工房
F A X 048-476-9111
〒353-0004
埼玉県志木市本町5-18-24

理化学研究所の理事長に 野依良治先生が就任

和光市の理化学研究所の
新理事長に、10月1日
付けてノーベル賞の受賞
者、野依良治先生が就任
された。先生は京都大学
で研鑽され、ついで名古
屋大学を研究の拠点とし
て、輝かしい成果を挙げ
られたが、西から東へ、
このたびは先生にとって
はじめての東京エリア、
県南西部への赴任であ
る。

理化学研究所は、和光
市の一角に広大な敷地を
占め、イオン加速器を含
む巨大な施設をもってい
る。古い歴史と高度の研
究成果を背景として、物
理学、化学、生物学など
の学問の基礎を築いてき
た(本誌5号参照)。10
月1日独立行政法人とな
り、和光市の本所のほ
か、国内および諸外国に
も支所をもつ。遺伝子工
学をはじめとして、我が
国の国益を掛けた科学技
術のプロジェクトを展開
している。今年度の全予
算は八百億円にもなる。

しかし地域住民から理
研をみると、この巨大な
施設の中で一体何が行わ
れているのか、研究内容
についても難解で近づき
にくい。核物理学の世界的
な拠点と聞くと、市民は
恐れをなしてしまう。し
かし全く無縁であっては
欲しくないのだ。最近各

方面で強調されている
[Accountability]、説明
責任をもつて住民に対応
されたいという願いは、
市民の誰もがもってい
る。

新理事長の野依先生は
しばしばテレビ、新聞の
座談会で、視聴者、読者
に対して、科学を
学ぶことの大切さ
を訴えておられ
る。市民の多くは
すでにメディアを
通じて先生と接し
ているので、地域
でも親しみをもち
たれ、市民の科学す
る心を育てる機会
になれば良いと思
う。

毎年春、実施さ
れる一般公開では、近隣
の高校生をはじめ、多く
の市民が参加し、会場の
各所で、最新の進歩を理
解しようと努力する光景
が見られ、また所員の
方々の丁寧な説明には熱
がこもっている。



理研の公開は単なる知
識だけでなく、市民の日
常の生活に科学的な視点
を与えるであろう。

就任されて間もない10月30日、 公開の「科学講演会」で 開会の挨拶をされる野依理事長



「21世紀の社会に必要な
ことは、豊かな、そして
高い文化度と人間性への
回帰、人間性の尊重だと思
います。現代の科学者は、
効率主義に陥り、これら
を忘れてはいませんか」と
科学を学ぶ人たちに語り
かけた。

薬科大学に 入学して

頓宮 香波
(新座市在住)

私が現在通っている学
校は、明治薬科大学で
す。五年前に清瀬キャン
パスに移転してきたので
校舎はとても奇麗です。
校舎の周りには植物が
多いし、学校付近は静か
で良い環境です。自宅か
ら学校まで近いので時間
を有効に使えます。
サークル活動やバイト
など、学生の間にしか出
来ないことに空いた時間
を利用して使っています。

また、一年生というこ
ともあり、時間的に余裕
があるけれども大変なこ
とも多々あります。理系
科目は難しくなってきた
し、実習も増えてきまし
た。

印象的だった実習は、
ラットの解剖です。自分
の手で解剖して、実際に
本物の臓器を見たり、触
れたりすることで、臓器
の名前や場所、大きさま
でも頭に入れることが出
来ました。
他には、化学の実習で
は、様々な薬品を用いま
すが、その時には一人一
人の注意力が重要視され
ることがわかりました。
器具の取り扱いを間違え
たり、また、多少の薬品
の量の違いで異なる実験
結果が出たり、反応しな
かったりします。

現在では、医療事故が
多発しています。これ
は、私達に医療に関する
教育、医療人であること
の自覚の無さを警告して
いるのだと思います。
人間性も間違えること
はあるけれども、間違え
てはいけないうところを
誤りを起こしているのだ
です。最近起きた薬剤師の
医療事故では、薬品を薄
める濃度を間違え、確認
するもう一人の薬剤師
も、その誤りに気づかず、
そのまま患者に渡っ

たために起きたもので
す。これはまさに、注意
力が欠けているし、パー
トナーがいない意味もな
いと思います。

私達の実習でも班で
行っていますが、一人一
人が何をやっているか
を把握し、決して人任せ
にしてはいけないことの
大切さを改めて思い直
しました。
一つ一つの事に注意を
払い、自分のやる事には
きちんと責任を持つこと
を、実習を通して身に
つけていきたいと思いま
す。

私は何でも暗記をしよ
うとしてしまい、思考力
が欠けているのです。専
門職、特に医療では、絶
えず進歩しているの
学部で習った知識だけで
は、古い知識のまま
です。

そこで、私達に求めら
れるのは、医療の現在及
び将来の発展の方向に対
する洞察力だと思いま
す。洞察力とは様々な知
識があつてこそ生まれ
るはずなんです。

だから、私は、もつと
物事を考え理解する学習の
仕方を心がけています。
私は化粧品開発者にな
りたくて、薬剤師を目指
していましたが、今で
は、人と接し、人を助け
る仕事をしたいと思い
ます。薬剤師を目指して
いるうちに、誰でも薬
剤師になれるが、決し
てこれはゴールではない
のです。アメリカなどは
に信頼されているし、重
要な存在です。

決して日本の薬剤師が
信頼されていないわけ
ではないけど、医師と比べ
るとまだまだ薄い存在で
す。

私は、病院で、医師と
同等ぐらい信用される臨
床薬剤師として働きたい
のです。そのためには、
薬学の知識だけでは足
りないと思います。薬剤師
なんだから、薬学の知識
があるのは当たり前であ
り、そこにプラスアル
ファの何かなくてはな
けないのです。



私は、医学についても
学びたいし、海外の医療
教育を受けて、視野を広
げてゆきたいです。
そして、臨床薬剤師に
は特に必要なコミュニ
ケーション能力も経験を
通して身につけて行き
たいと思います。
私達は四年制の薬学部
の学生であり、期間は短
いけれども、一つ一つの
事を大切にして、沢山の
ことを得られるよう、
日々努力していきたいの
です。

キャンパスの一角にあ
る薬草園は、知識を得な
がる薬草に親しめる散策
路、一般にも公開され
る。12月に毎月開催され
る「ハーブや生薬(しよ
うやく)を楽しむ会」は
近くの市民にも好評であ
る。

明治薬科大学の所在地
JR武蔵野線新秋津駅
(朝霞台より10分)
下車、徒歩17分
または西武池袋線秋津駅
下車、徒歩12分
連絡先(入試室)
TEL 0424-955-
5061

大学院の研究室では新たな
発見 - exciting!

何にしよかな... 学生食堂の
華やかなメニュー



大和田通信基地(新座市)

その二

歴史教育者協議会 金子 眞

大和田

気象通信所

ベトナム戦争

もらい電気

一九四五年終戦で海軍大和田通信所はなくなったのでしょうか。「昭和二十年八月二十四日 海軍大和田通信所の処理について、中央氣象台で海軍および陸軍との三者会談がもたれ、中央氣象台に移管する」という意向が固まった」という記録があります。通信施設は通信省(ていしんしょう)が処理し、同年十一月には中央氣象台大和田臨時出張所が創設されました。

米軍大和田

通信基地

朝鮮戦争

一九五〇年あの朝鮮戦争が始まる前夜七月に通信施設の主体は米海軍に占領され、氣象通信所はその片隅に追いやりられ清瀬分室になりました。朝鮮戦争が始まると米軍は「航空氣象データに至急よこせ」と何度も来た」と氣象台の人は語っていました。

横田通信

ネットワーク

一九八二年度の米軍基地計画によると「大和田通信基地(受信)所沢通

信基地(送信)と横田基地を結ぶ米戦略空軍(S・A・C)の指揮、管制の通信網を最新のものにする」とあります。米軍大和田通信基地の広さは、六万坪と電波障害制限区域三十四万坪、計四十万坪におよぶものです。制限区域は新座市や清瀬市の農家六十六軒の人が畑作農業をしています。

一九六六年の毎日新聞の記事には「もらい電気」という見出しで、米軍が接収後建てた家は電気が引けず、接収以前から電灯線の入っている家から電気を引こうとしたが「電波障害になる」といって引けず、地下ケーブルで引こうとしたが許可にならず、「もぐり電気」「もらい電気」でくらししているというのです。六七年にやっと配電されるようになりまし

また、制限区域内にある西堀小学校は教室不足から二階の校舎に改築したいができず、一九六九年には制限区域外に建設用地を確保して開校することができました。

今日、北朝鮮の問題が毎日のように報道されている中で、米軍大和田通信基地はどのような位置にあるのか大きな問題があると思います。私達の地域がこんなにも世界とつながっていることなのです。

※参考(歴史地理教育一五十一号)「にいくらこおり十六号」

戦後はまだ終わらない

大和田通信所はいま東武有地は各戸で国と賃貸借契約を結び、そのさい土地の利用には制限が設けられている。国からは借地料が支払われるが、一方地主は市に対して固定資産税を納付するという仕組みだ。フェンス内の土地所有者に対する制約のためか、現在西側全域で耕作

日米の協定によって、この地域はいまでも横田基地の米軍が占有しており、米軍から要請があるとき、東京防衛施設局が土地、建物施設の工事を行なうという流れになっている。フェンス内の土地所有は、国有地と私有地とが混在しているが、私



は行なわれておらず、武蔵野に残された山林の混じった広大な原野が広がっているだけだ。

一方東側は目を向けると、西側とは大きく異なり、その北地域はすでに市有地になっていて、総合体育館などのいくつかの施設が設けられ、住宅、工場も散見される。点在する農地は耕作され、防衛施設局のフェンスや掲示は東側には見ら



写真上
工事中のメインゲート
写真右
米軍が使用中の建物
写真左
もう一つのゲート



地図 東京防衛施設局が掲示している地図に現況を書き加えたもの

大木新司氏と三富(さんとめ)

大木新司さんは、江戸時代元禄年間(1694)に三富の開拓で知られる「三富開拓」の地、三芳町上富で生まれ育った。三富で特別展が開かれた(平成4年度特別展の資料から)。

しかしこの地域内の土地所有者は、市当局の企画を通して防衛施設局に伺いを立て、米軍との協定に照らして、自宅の改修を行なうという厳しさが残されているよう

新座市で制限地域を担当するのは企画課、居住する市民は、家屋の改修にさいして、ここを窓口として防衛施設局にお伺いを立てなければなら

三富開拓者の子孫としての思いと絵を描くことが重なる、やがて、報の開示を、東京防衛施設局と、新座市の計画課に対して求め、新しい道を歩き始める手引きをしたい。継続して取材を続



甘藷掘り(昭和35~40年頃の光景)
さつまいも掘り(今見られる光景)



大木新司氏のプロフィール

昭和11年 (1936)	三芳町上富に生誕
昭和43年 (1968)	松本一氏に西画を師事する
昭和51年 (1976)	創造美術展初出品
昭和57年 (1982)	創造美術会準会員
昭和60年 (1985)	創造美術会会員

あなたへの メッセージ

「浜崎の東葉師堂」のすぐ後ろにはJR武蔵野線が通り、その後ろには朝霞浄水場の給水塔がたっている。どこにでも見られる新旧文化の共存風景だが、「旧」もそれなりの存在感があるのが、浜崎という地であるうか。

黒目川の水浴び

池田氏のお宅から南東の方向に下っていくと、黒目川に行き当たる。流域に緑をあげながら、緩やかに蛇行して、春には桜堤としても知られる。周囲は見渡す限りの田と畑の田園風景だ。そこに健康増進センター「わくわくどーむ」や、総合福祉センター「はあ

浜崎の東葉師堂

池田氏は大正十四(一九二五)年一月に現在の朝霞市浜崎で生まれた。そこは現在お住まいの家である。そのお宅のすぐ前には「浜崎の東葉師堂」がある。同じ浜崎にある三光院の持堂で、墓地として使われているが、墓地ということばから呼び起こされる湿った感じはない。三光院の墓地を中心とした持堂は、ほかに「浜崎の観音堂」「浜崎の地藏堂」がある。いずれも江戸時代の記録にあるもので、規模は小さくなったものの、それなりに周囲の風景に溶け込んでいる姿が、訪れるものに安心感をあたえてくれる。

浜崎に生きる画家 池田要氏

(聞き手・安斎達雄)

とびあ」などの新しい健康福祉施設がアクセントを添える。川の向こうには東洋大学も見える。

黒目川の水は冷たいがきれいだっただけで、ここ

とて、黒目川を見おろす小高い畑の中にある地蔵神社の祭りだ。この日は醤油樽でつくった樽みこしがでた。もちろん、こども専用で、大人のみこしはない。志木のおもちゃ屋で金紙・銀紙・モール・鈴などを買ってきて、毎年の例にならって飾りつけをした。鳥居の形をした作り

地蔵神社と稲荷様

物だけは保管して毎年使ったが、その他は毎年つくりにかえた。みこしは農家の庭から庭へまわって、集められたお金は、高等二年のリーダーが、長幼の序や功労に応じて配分した。

冬の祭りといえば、初午の前の夜は宵宮である。こどもたちが、家々から集めた丸太やむしろを、使った稲荷様を包み込んで、晩中この小屋にこもった。年番制の宿の家でつくった五目飯、集めたお



要氏78歳・自画像

浜崎の風景

池田 要氏制作



浜崎の人と風景

池田要氏は、昭和二十(一九四五)年九月に師範学校を卒業し、志木国民学校(戦時中)小学校はこ

浜崎という地名は、その昔、南東の低地が入り江であったことに由来するといふが、小高い台地から田畑を、川を、そして入り江を眺める茫洋としたおらかさが、浜崎の風景と池田要氏を貫いているのかも知れない。



黒目川の岡橋からの眺め



右 東上線を遠望する、左側は東洋大学校地



右 浜崎通りの東葉師堂、浄水場・武蔵野線を背景として

この人

柳沢吉保

柳沢吉保の実像

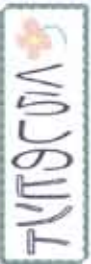


万治元年(1658) 江戸市ヶ谷に生まれる
延宝三年(1675) 18才 家督相続
元禄元年(1688) 31才 諸侯に列し、若年寄上席となる
元禄七年(1694) 37才 川越城主、侍従、老中格となる
元禄十一年(1698) 41才 近衛少将、老中筆頭(大老格)
禄高 九二〇三〇石

開拓地は川越の南へ三里、上富(現三芳町)、中富、下富(現所沢市)に広がる東西33町、南北47町に及ぶ原野で、1300町歩(1300ヘクタール)に及ぶ広大な区域であった。

柳沢吉保(やなぎさわ よしやす)は江戸時代元禄の世に五代徳川将軍の下で異例の出世を遂げた人物で、川越城主となり、大掛かりな三富新田の開拓を進めたことはよく知られている。

以上の郷土史への造詣が深く、特に山梨の郷土史のエキスパートとして知られる野澤公次郎氏が書かれた「柳沢吉保の実像」(みよしほたる文庫3、三芳町教育委員会発行)を参考にして記述した。



サバ(鯖)の旬は秋、「秋サバ」は脂が乗って特においしい。春から夏にかけて産卵を終えたサバが、その体力を回復するために秋になって餌を沢山食べるためといわれている。

サバの脂肪分の大半を占めるのは、不飽和脂肪酸で、体内の胆汁排泄を促進し、血中のコレステロール値を下げる。一方牛肉や豚肉などに多い飽和脂肪酸は、過剰に摂取すると肝臓でコレステロールの合成を亢進させる。つまり同じように脂っこい食べ物でも、サバなどの魚の脂は牛や豚の肉とは異なり、高脂血症を防ぎ、動脈硬化を予防する効果が期待できるのだ。

秋にはサバを食べよう

体に良いことがよく知られているDHA(ドコサヘキサエン酸)は不飽和脂肪酸の一つであるが、ヒトなどの脳内脂質の20%を占めており、細胞間の情報伝達を円滑にする作用があるという。したがってDHAを多く摂取すると、記憶力や分析力などの学習能力が向上するという。また赤血球や血管に作用して血行を改善し、末梢の冷えや慢性的な疲れを回復させる効果もある。

マグロはDHAが多い魚として知られ、特に頭(カマ)に不飽和脂肪酸が多い。脂の乗ったトロには多いが高価だ。しかしサバはより安価で、その100gにDHA 1.8gが含まれており、DHAの目標摂取量である1日1.5gを上回る。そこでサバなら半切れ、80gも摂ればよいという計算になる。またサバにはやはり不飽和脂肪酸であるEPA(エイコサペンタエン酸)も沢山含まれていて、EPAには血栓を予防し、血流を改善して肩こりを解消する効果もあるといわれている。

鯖



「自ら学ぶ力」を基本とする 確かな学力を育てるための提言

子どもや学校教育の現状を見ると、多くの課題が山積みされている。従来教育の問題は、国の機関である文部科学省の方針を遵守することから始まった。しかし最近、各地の行政機関は、ユニークな方策をつぎつぎと打ち立てている。学力の低下にどう立ち向かうか、共通の目標は、教育の質の向上である。

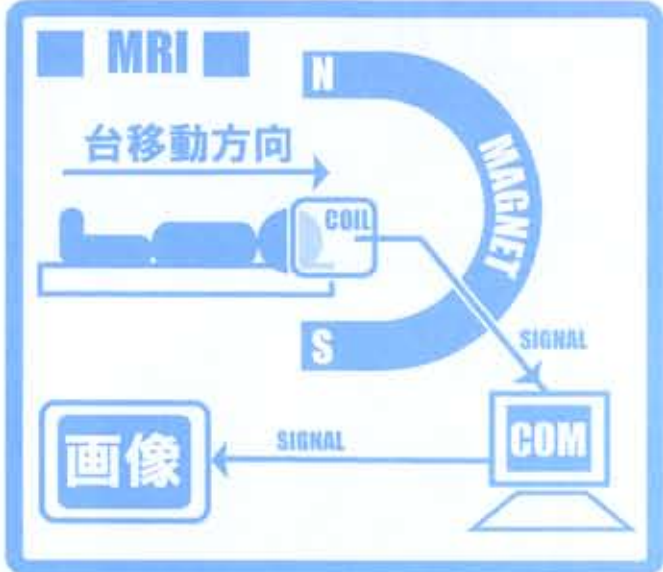
MRIって何?

今年のノーベル生理学賞は、医療に欠かせなくなったMRIを開発した三人の科学者に贈られた。診察を受けにいった病院で、詳しく体の中を診てみようと医師からいわれ、ベットの上に横になって、トンネルのようにな大きな空洞の中に移動した経験のある方もおられると思う。その機械がMRIである。

その特徴は、体を全く傷つけずに、覗き見ができることである。X線撮影のような被爆(ひばく)はない。体の中をモニターに映し出し、例えば未知がぎつりつまった脳の中も、覗くことができる。被爆がないので、時間を掛けて観測することができ、人体を宇宙に例えて、「内なる宇宙が見えてきた」という人さえもいる。

MRIはMagnetic Resonance Imaging(磁気共鳴を用いる画像化、断層撮影のこと)の原理が分ったのは、実は三十年も前のことであった。

確かな学力はどうしたら身につくのだろうか。多くの教育関係者の提言は、基礎をしっかりと教身に付ける、自ら学び、自ら考える、という点に収斂(しゅうれん)してきている。新たに導入された「総合的な学習」が目指すものも、同じ方向を向いている。



計測法は、結合の仕方がわずかに異なる水素原子の結合の仕方を知り、分子全体の構造を解明するための重要な分析技術となっていた。

生物にもっとも多く含まれる物質は水、その水分子を構成する水素原子が、一定の磁場で吸収する電波を、時間と共に放出する。放出される電波は、原子の密度や、同じ部位に存在する他の物質の磁気の影響などによって違って来る。その様子を画像化する。医学の診断に使われるようになったMRIは、生体の中の水の状態の違いを画像化するもので、測定しているのは、実は体の中の水なのである。きわめて微小なエネルギーを検出するために、またこれを二次元の画像として表示するという、まさしく今日の最高の技術を駆使したもののなのである。

ウォッチング

時代を超えて 変わらぬ運動会の風景

右写真：赤組頑張れ、青組頑張れ

下写真：子ども、孫を応援するPTA

右下写真：来賓席は欠かせない運動会のアクセサリ



特定非営利活動法人 NPO「市民フォーラム」
この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行う。市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。

読者の「オビニオン(意見/考え)」を募集します。
TEL 090-3048-5502
編集担当 原宛にどうぞ

本紙は暮らしやすい地域を創るために、市民の方々の取材を通して皆様と共に考えます。
また市民が行政と情報を共有することを求めます。